

音楽科実技科目におけるルーブリック評価採点集計への試み

Trial to the roux brick evaluation marking count
in the music department practical skill subject

深谷悠里絵* 磯部 哲夫* 南川 肇* 横溝 聡子*
Yurie HUKAYA Tetsuo ISOBE Hajime MINAMIKAWA Toshiko YOKOMIZO

In last year, I tried the roux brick evaluation for the music practical skill subject.

As a result, it became clear to be the evaluation method that could picture a clear vision in educational guidance to a motivation up effect and the next of the student by the feedback of the evaluation that I visualized after the prior presentation and examination to the student of the roux brick list.

In addition, it was said that it was an advantage that the roux brick evaluation could do marking in a short time, but big problems included that they needed time very though they added up marking after an examination in the music department.

Therefore I decided to perform a new action such as marking and the count using the PC to plan efficiency of the marking count this year. I inspect it about the concrete action in this report and want to try consideration about the method and effect.

はじめに

大学教育における成績評価基準の策定や明示化が求められ、様々な評価方法が導入されている中で、本学音楽科では一昨年度より卒業研究の論文に対するルーブリック評価を導入してきた。それにより、評価基準の明確化や複数の評価者の評価の標準化が図られるなど、採点法としての有効性を得ることができた。その結果を受けて、昨年度は、音楽実技科目に対するルーブリック評価の試みを行った。長年行ってきたインプレッションによる評価とルーブリック評価の比較研究から、演奏実技に対する評価法としての妥当性を確認することができた。芸術分野の演奏実技のインプレッション評価では、評価基準は個々の教員の判断に任せられ、漠然としていたが、ルーブリック表の評価項目の文言により、複数の実技担当者間の採点基準の標準化・採点基準の明確化が図られたと言えよう。ルーブリック表の学生への事前提示や、試験後の可視化した評価のフィードバックにより、学生のモチベーションアップ効果や、次への学修

* 音楽科

指導に明確なビジョンを描くことができる評価方法であることも明らかとなった¹⁾。また、昨年度の後期から、DP(ディプロマ・ポリシー)を基にしたDPルーブリックを実技科目のルーブリックにも反映させ、2年間で学修すべき段階を更に明示できるよう取り組みを行ってきた。

演奏実技科目のルーブリック評価に対する考察により、感覚的な音楽表現をどの様に言葉で表現するか、また個人差のある到達度の捉え方や、それぞれの楽器専攻の特性をどのように考慮し評価表に反映させていくかなどが、課題や問題点として見えてきた。また、ルーブリック評価は採点が短時間でできることが利点であるとされているが²⁾、音楽科では、試験後、採点を集計するのに非常に時間を要することが大きな課題として挙げられた。そこで、今年度は採点集計の効率化を図るために、PCを用いた採点と集計といった新たな取り組みを行うこととした。本稿ではその具体的な取り組みについて検証し、その方法や効果について考察を試みたい。

1. PCを用いた実技試験の採点

前期実技試験は、主科の専攻実技として「ピアノⅠ・Ⅱ」「声楽Ⅰ・Ⅱ」「管楽Ⅰ・Ⅱ」「弦楽Ⅰ」、声楽専攻者は、副科として「ピアノⅠ・Ⅱ」を、管・弦楽専攻者は、副科として「声楽Ⅰ・Ⅱ」と「ピアノⅠ・Ⅱ」を実施した。音楽科専任教員全員と担当の非常勤講師で評価を行った。6月に実施した前期小テストにおいての採点方法は、紙面でルーブリック表にチェックする方法で行ったが、採点者がそれぞれの記入による手作業で点数を出していくため、何度も計算し直して誤りのない数字を出し、採点した教員1人1人のデータを読み込むなど、成績処理に時間がかかっていた。

以上のような問題点を踏まえ、今回の試験では、採点の方法を変える事とした。まず、複数の手順を踏むことによる単純な間違いを避け、点数の正確さ、成績処理の簡略化を追求することを目的とし、PCを試験会場に持ち込み、学習内容項目の書かれたルーブリック表(表1)と照らし合わせ、演奏を聴きながら表2の採点チェックボックス表の□にクリックをして、チェックしていく方法を取り入れた。評価基準は今まで通り、5段階評価で使用されるGPA評価「S(100～90)、A(89～80)、B(79～70)、C(69～60)、F(59～50)」を設定した。さらに細分化し、□は評価基準の左からS+(100)、S(95)、S-(90)、A+(85)、A(80)、B+(75)、B(70)、C+(65)、C(60)、F+(55)、F(50)とした。

実際にレッスンを担当している採点者は全項目の採点をすることとし、専門(ピアノ・声楽・管楽・弦楽・と分類)が同じ場合は「知識・理解」「技能」「表現」までを採点し、「意欲・態度」は空欄とした。また、テストを受ける学生が専門と異なる採点者の場合は、「表現」のみを採点することとした。

音楽科実技科目におけるルーブリック評価採点集計への試み

表1 ルーブリック表

1年前期ピアノ(主科)実技試験(ソナタ)ルーブリック

大項目	小項目	S (100～90)	A (89～80)	B (79～70)	C (69～60)	F (59～0)	評価比率
知識・理解	古典派の様式やソナタ形式を理解しているか。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常によく理解しており、作曲者の作曲意図の解釈や、様式感、構成感や和声感などが感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> よく理解しており、様式感、構成感や和声感も感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 様式感、構成感などがやや希薄である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 理解が不十分であり、様式感や構成感をあまり感じられない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く理解していない。	20%
	演奏技術	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常に熟練性を持ち、表現と結びついた高い技術で、確実かつ安定している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 熟練性を持ち、表現と結びついた演奏技術で、確実性もある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 曲の形にはなっているが、演奏技術がまだ十分に身に付いていない。確実性もやや欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 曲を弾くのがやっとの状態である。演奏技術が身に付いておらず、確実性も欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く曲の形になっていない。演奏技術が全く身に付いていない。	35%
表現	演奏表現の積極性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常に積極的に表現できており、聴き手を納得させる演奏である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 積極的に表現しようとしており、良い印象である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> やや積極性に欠け、表現力が乏しい。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 努力は窺えるが、表現できるどころまで至っていない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 表現しようという意図が全く伝わってこない。	32%
	ステージマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振る舞いが大変美しく丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振る舞いが自然で丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振る舞いがややごちない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振る舞いに丁寧さがない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージマナーを理解していない。	3%
意欲・態度	・レッスンに対する主体性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しながら十分な練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 課題を解決しようと練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢がやや不足しており、練習が十分でない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢に欠け、練習不足が目立つ。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンの準備を全くしていない。或は欠席が多い。	5%
	・レッスンにおけるマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおける礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちを感じられ行動にも表れている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおける礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちを感じることができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いにムラが見られる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いがなされていないことが多く見受けられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンに対してのマナーが全くなっていない。	5%

表2 採点チェックボックス表

学生氏名

	比率	S+	S	S-	A+	A	B+	B	C+	C	F+	F	得点
知識・理解	0.20	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	17
技能	0.35	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	24.5
表現1	0.32	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	24
表現2	0.03	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2.4
意欲・態度1	0.05	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4.5
意欲・態度2	0.05	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4.25
											OK	合計	76.65

1年生前期実技試験がPCを用いた採点を取り入れた最初の試みとなったが、演奏を聴きながら表にチェックをしていくため、マウスの操作音が気になるという学生からの声もあり、2年生前期実技試験においては、マウスを使わずにタッチパッドで操作するよう改善した。また、PCに慣れていない採点者については、紙面のルーブリック表(表1)で採点し、テスト終了後にPCに打ち込む対応を行った。

今回は、表2の左端に記載されている、「知識・理解」「技能」「表現」「意欲・態度」の項目が、「声楽」「管楽」「弦楽」によってそれぞれ小項目が異なり、その内容を記載すると非常に煩雑になるため、小項目については、表現1、2のように数字にて表すこととした。そのため、前述のように採点者には、それぞれの項目が記載された表(表1)を配りそれと照らし合わせる事が必要となってしまった。今後、採点者ごとのルーブリック表をPC上にそれぞれつくり、チェックする方法をとる等、改善の余地があったと思われる。

表3 採点集計表

	採点者A	採点者B	採点者C	採点者D	平均値
知識・理解	17		16		16.5
技能	24.5		22.75		23.625
表現1	24	22	22.4	24	23.1
表現2	2.4	2.4	2.55	2.25	2.4
意欲・態度1	4.5				4.5
意欲・態度2	4.25				4.25
合計					74.375
					—

2. 採点の集計とフィードバック

各採点者から、ルーブリック表をメールで回収し、表2の得点部分をコピーし、表3の採点集計表に、採点者全員の点数をコピーペーストして合計を算出した。集計した表の平均値にある数字は、100点満点で採点された点数をそれぞれ評価比率で計算したものが表示されている。

各項目ごとに評価比率が設定されていて、ルーブリック表(表1)の一番右で確認することができ、大項目「知識・理解」20%、「技能」35%、「表現1」32%、「表現2」3%、「意欲・態度」5%、「意欲・態度」5%となっている。

また、小項目の評価をGPAの評価(S～Fの5段階)でつけていく際、前述のように100点満点の数字と異なって集計表に表示されるため、「知識・理解」のS+の評価は20、Sは19、S-は18、「技能」のS+は35、Sは33.25、S-は31.5のように、項目ごとに評価比率に従って計

音楽科実技科目におけるルーブリック評価採点集計への試み

表4 項目ごとの評価比率による点数

1年前期ピアノ(主科)実技試験(ソナタ) ルーブリック

大項目	小項目	S (100 ~ 90)	A (89 ~ 80)	B (79 ~ 70)	C (69 ~ 60)	F (59 ~ 0)	評価比率
知識・理解	古典派の様式やソナタ形式を理解しているか。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常によく理解しており、作曲家の作曲意図の解釈や、様式感、構成感や和声感などが感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> よく理解しており、様式感、構成感や和声感も感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 様式感、構成感などがやや希薄である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 理解が不十分であり、様式感や構成感をあまり感じられない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く理解していない。	20%
評価比率による点数		20 19 18	17 16	15 14	13 12		
技能	演奏技術	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常に熟練性を持ち、表現と結びついた高い技術で、確実かつ安定している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 熟練性を持ち、表現と結びついた演奏技術で、確実性もある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 曲の形にはなっているが、演奏技術がまだ十分に身に付いていない。確実性もやや欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 曲を弾くのがやっとの状態である。演奏技術が身に付いていない。確実性も欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く曲の形になっていない。演奏技術が全く身に付いていない。	35%
		33.25 31.5	29.75 28	26.25 24.5	22.75 21		
表現	演奏表現の積極性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常に積極的に表現できており、聴き手を納得させる演奏である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 積極的に表現しようとしており、良い印象である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> やや積極性に欠け、表現力が乏しい。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 努力は窺えるが、表現できるまで至っていない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 表現しようという意図が全く伝わってこない。	32%
	ステージマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振る舞いが大変美しく丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振る舞いが自然で丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振る舞いがややぎこちない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振る舞いに丁寧さがない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージマナーを理解していない。	3%
		2.85 2.7	2.55 2.4	2.25 2.1	1.95 1.8		
意欲・態度	・レッスンを対しての主体性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しながら十分な練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢がやや不足しており、練習が十分でない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢に欠け、練習不足が目立つ。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッソンの準備を全くしていない。或は欠席が多い。	5%
		4.75 4.5	4.25 4	3.75 3.5	3.25 3		
	・レッスンにおいてのマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおける礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちが感じられ行動にも表れている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおける礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちを感じることができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いにムラが見られる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いがなされていないことが多く見受けられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンに対してのマナーが全くなっていない。	5%
		4.75 4.5	4.25 4	3.75 3.5	3.25 3		

算した(表4)。

これらを基に学生には、表5の右端のようにG P Aの評価(S~Fの5段階)を、+(プラス)、-(マイナス)で細分化した評価を紙面のルーブリック表に書き入れフィードバックを行った。

表5 学生へのフィードバック

1年前期ピアノ(主科)実技試験(ソナタ)ルーブリック

大項目	小項目	S (100～90)	A (89～80)	B (79～70)	C (69～60)	F (59～0)	評価比率
知識・理解	古典派の様式やソナタ形式を理解しているか。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常によく理解しており、作曲者の作曲意図の解釈や、様式感、構成感や和声感などが感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> よく理解しており、様式感、構成感や和声感も感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 様式感、構成感などがやや希薄である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 理解が不十分であり、様式感や構成感をあまり感じられない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く理解していない。	A+
	演奏技術	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常に熟練性を持ち、表現と結びついた高い技術で、確実かつ安定している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 熟練性を持ち、表現と結びついた演奏技術で、確実性もある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 曲の形にはなっているが、演奏技術がまだ十分に身に付いていない。確実性もやや欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 曲を弾くのがやっとの状態である。演奏技術が身に付いておらず、確実性も欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く曲の形になっていない。演奏技術が全く身に付いていない。	B
表現	演奏表現の積極性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常に積極的に表現できており、聴き手を納得させる演奏である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 積極的に表現しようとしており、良い印象である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> やや積極性に欠け、表現力が乏しい。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 努力は窺えるが、表現できるどころまで至っていない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 表現しようという意図が全く伝わってこない。	B+
	ステージマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振る舞いが大変美しく丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振る舞いが自然で丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振る舞いがややごちない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振る舞いに丁寧さがない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージマナーを理解していない。	A
意欲・態度	・レッスンに対する主体性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しながら十分な練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようと練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢がやや不足しており、練習が十分でない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢に欠け、練習不足が目立つ。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンの準備を全くしていない。或は欠席が多い。	S-
	・レッスンにおけるマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおける礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちが感じられ行動にも表れている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおける礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちを感じることができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いにムラが見られる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いがなされていないことが多く見受けられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンに対してのマナーが全くなっていない。	A

電子化された表を使用することで、点数算出の正確さ、時間の短縮等、利点のほうが多く見受けられ、効率よく実施することができた。

GPA評価で表示する際、評価比率による点数を別に計算したことが見直しすべき点となったため、この点においては次回以降改善していく必要がある。

まとめ

ルーブリック評価は、一般的に採点が短時間でできることが利点であるとされているが、本学科の実技試験において、1人の演奏を複数の教員で採点し、試験後、採点を集計するのに非常に時間を要することが大きな課題であったため、採点集計の効率化を図るために、PCを用いた採点と集計といった新たな取り組みを行った。

PCを試験会場へ持ち込み、演奏を聴きながチェックボックスにチェックをして採点をするという試みであるが、マウスの操作音が気になるという学生からの声もあり、マウスを使わずにタッチパッドで操作するよう改善したりしたが、その後の集計の効率化を考えると、この試

みは一定の評価があったといえよう。しかし採点者は、紙ベースのルーブリック表を照らし合わせながら、PC上のチェックボックスにチェックしなければならず、今後、PC上のルーブリック表に直接チェックする方法を検討していくことが課題となった。

集計においては、電子化された表を使用することで、点数算出の正確さ、時間の短縮等、利点のほうが多く見受けられ、効率よく実施することができたことが検証できた。今後の課題としては、GPA評価で表示する際、評価比率による点数を別に計算しなければならなかったため、より効率的な計算方法を検討していく必要がある。

謝辞

本稿の採点チェックボックス表の作成に際し、本学人間生活学科准教授の石原正道氏に大変お世話になりました。あらためてここに謝意を表し御礼申し上げます。

執筆分担

深谷悠里絵：2. 採点の集計とフィードバック

磯部 哲夫：まとめ

南川 肇：1. PCを用いた実技試験の採点

横溝 聡子：はじめに

引用文献

- 1) 横溝聡子・磯部哲夫・南川肇・深谷登喜子：音楽科実技科目におけるルーブリック評価の導入，179-194頁，郡山女子大学紀要第54集，2017.
- 2) ダネル・スティーブンス，アントニア・レビ：大学教員のためのルーブリック評価入門，12-14頁，玉川大学出版部，2016.

参考文献

- ・リンダ・サスキー：学生の学びを測る アセスメントガイドブック，玉川大学出版部，2015.
- ・佐藤浩章編：大学教員のための授業方法とデザイン，玉川大学出版部，2013.
- ・池田史子・畔津忠博：複数教員によるレポート評価の為のルーブリック形式の評価表導入に関する検証，日本教育工学会論文誌 36 (Suppl.)，153-156頁，2012.
- ・寺田貴雄・小林美喜子：音楽実技科目におけるルーブリックの設定—ピアノ演奏技術の学習過程の評価—，北海道教育大学，2016.
- ・高瀬健一郎：音楽実技科目へのルーブリック導入の試み「基礎器楽(ピアノ)」における評価活動を題材として，常葉学園短期大学紀要第45号，225-238頁，2014.
- ・沖裕貴：大学におけるルーブリック評価導入の実際—公平で客観的かつ厳格な成績評価を目指して—，立命館高等教育研究，第14号，71-90頁，2014.
- ・服部慶子・長谷川哲也：音楽教育における資質能力の評価に関する研究—教員を目指す学生を対象としたパフォーマンス評価に注目して—，静岡大学教育実践総合センター紀要 28号，150-161頁，2018.